

令和5年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・最終)

和庄中学校区 校番10 学校名 呉市立和庄中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期 (1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
*** ①	学力の向上	分かる授業を創る	「授業はよく分かる」の設問に「よく当てはまる」と答えた生徒は67%で、目標を達成した一方、「全国学力・学習状況調査」全国平均との差は「国語」が全国比+4.2ポイント、数学が±0、英語は-2.6ポイントとなり3教科中2教科で目標を下回った。課題として、基礎的事項にはある程度の定着はみられるものの、自分の考えを表現したり、情報を取り出し説明したりすることなどに課題が見られた。	定着した知識を活用する取り組みを実施する。特に正答率に課題がある設問については、それぞれの原因を明確にした上で、継続した学び直しを行う。 また、全教科において「和庄中学校区授業モデル」に示されている「今日のなるほど」「明日のために」の場を深化させることで、自分の考えに気付かせたり表現させたりする力をつける
		思考を働かせる場をつくる	「防災教育を自らの課題として考えることができた」の設問に「よく当てはまる」と答えた生徒は60%だった。	系統的・計画的に実施することで、各教科とも関連を持たせながら実施していく。合わせて地域人材などのゲストティーチャーを活用し、継続的に身近な課題として考える機会をもつ。
** ①	「和庄中学校区スピリット」に基づく生徒の育成	礼儀正しく節度を守る生徒を育てる	「粘り強くやり抜くことができる」と答えた生徒は42%であった。生徒が粘り強くできたと思えるような意識づけできるような仕組みや教職員の声掛けが必要だと分かる。 「学校に行くのは楽しい」と答えた生徒は55.3%であった。換気をしながらも、制限なく通常の学校生活が戻ってきたことも影響していると考え。	生徒の意識づけを、評価の仕方を工夫・改善することや教職員の声掛けを変えることで高める。また、学校全体で意識を向上させていく取組を仕組む。 そして、学級・学年通信、掲示物等を活用し生徒の活動の様子を発信することで、自己肯定感を高めていく。
		学校や社会に貢献する生徒を育てる	「生徒会活動は、学校や地域に役立っている」と答えた生徒は47%であった。母校での挨拶運動やスクールジョブを行ったが、その活動が役割を果たしている、学校生活に貢献できていると実感させられていないことが分かる。	生徒会活動の充実を図ることで生徒の主体性を育み、生徒会活動の質を高めたい。生徒会活動を行ってはいないが、教職員が肯定的な評価を行うことで「やってよかった」「学校に貢献している」と感じさせたい。そのために、学校だより・学年通信、日頃からの声掛け等で評価をしていく。
* ①	健康増進・体力の向上	メディアコントロールを推進する	「メディア等の使用時間を決め、計画的に使用している」と答えた生徒は27%であった。使用時間や、使用目的(家庭学習に使用する等)が違うため、一概に否定的にとらえるべきではないと考える。	小中で取り組んでいる生活習慣について、チェックカードの内容を協議・確認し、統一形式で9年間見通した指導が必要と考える。
		体力を向上させる	3種目とも目標値の達成はしている。体育の授業や部活でのトレーニングについて、なぜやるのかという理由を、生徒が理解し取り組んでいることが結果に繋がった。	今後もこれまでの取組を継続していき、目標値に達していない生徒の記録向上を目指していく。また、目標値に達している生徒は、発展したトレーニング等をおこない、さらなる記録向上を目指す。
働き方改革	教職員が主体性・積極性が発揮できる教育環境の整備	児童生徒と向き合う時間の確保	生徒と向き合う時間が確保されていると感じる教員の割合は47%であった。突発的な生徒対応や連携・協議に時間が割かれたことが、この数値に現れている。	平素からの積極的な生徒指導を進めることで問題行動を減少させていくとともに、共通理解を図ったうえでの指導と組織的な対応を強化していく。
		長時間勤務の削減	時間外勤務が月45時間までの教職員の割合は4月47%、5月79%、6月58%、7月63%、8月100%、9月79%であった。新年度(4月)は職員の移動が大幅にあり、特定の教員が超過することになった。また、持ち帰りの仕事が多く今回の調査に反映されていない者もいると考える。	教職員のモチベーションを大切にしながら、日々の業務について、リストの作成と優先順位を決め、確実にメモすることで時間の管理を徹底し、業務改善を図っていく。 分掌の役割分担の見直しも行う。